



横澤和也氏プロフィール

長野県の安曇野市出身。大阪芸術大学演奏学科フルート専攻を卒業。

昭和60年奈良県奥吉野になる天河弁天社で石笛と出会いその音色に魅せられる。

現在はフルートだけでなく、石笛、竹笛、篠笛などの様々な横笛を通して、一期一会の音空間を創造する演奏家として活動している。

西洋音楽から学んだ確かな音楽理論とテクニックに加え、日本人としての感性を生かした、独特の即興演奏スタイルは、民族や宗教を越えた命の響きとして好評を得ている。石笛を音楽的に表現し、その魅力を全世界に伝えている演奏家である。演奏者と聴衆が、大自然と一体になって行うマイクロフォンを使わない自然音のソロコンサートはとても魅力的である。



海外での演奏歴

ニューヨーク/カーネギーホール・スイス/モントルジャズフェスティバル・オランダ/ノースシージャズフェスティバル、その他ヨーロッパ各地での招待演奏、中国北京/アジア各地での招待演奏。近年、アメリカサンフランシスコで演奏旅行にいき、在住のアーティストとともに新しい作品を創り上げ高い評価を受けた。



石笛ってどんなもの？

太古の昔…縄文時代もしくはそれ以上昔から日本に存在していた石でできた笛。人工的に作られるものではなく、二枚貝の1つである二ホ貝が作り上げる全く自然な楽器。古語では「いはぶえ」と呼ばれ、遺跡からも出土している。

民族性や宗教性を越えた人類太古の音

もともとフルート奏者だった横澤さんと石笛との出会いは、奈良の奥吉野にある天河弁天を訪れたとき、その宮司に「音霊を神様に奉納して欲しい」と頼まれたことがきっかけだった。何度か奉納演奏に訪れているうちに、ある日、神殿に祭ってあった石笛を宮司に手渡され、演奏するように言われる。

初めて見る楽器を試し吹きしようとした横澤さんは、「石笛は神を呼ぶ。だから練習してはならない」という宮司の言葉に強烈な驚きを感じた。吹き方も音色もわからない石笛を前に、無我無心の境地で臨むしかなく、ただ丁寧に息を吸い、丁寧に息を吐くことだけに心を集中させることでその場と一体となり、すべてと調和する感覚を体験したという。

カーネギーホールで行われた演奏会では、司会者が石笛の音を「日本の古代の伝統的な音楽」と紹介したところ、演奏後にやってきたアメリカ人記者に、「石笛は日本の古代の象徴的な音ではなく、人類の太古の音だ。」と言われたことがあったとのこと。それは、石笛が自然界の音を奏でていることにも理由がありそうだ。横澤さんは、「ハーモニーという概念は西洋のもの。人間が便宜的につくった音階に合わせないと、美しいハーモニーではないという考え方はおかしい。本来、全てが調和している自然界に不協和音はありません。地球上の音は、全てがハーモニーなのです。」と語ってくれた。もしかしたら、民族性や宗教性という集合意識を超えたところに、石笛の音は存在しているのかもしれない。

横澤和也氏のコメント「月刊フナイ・メディア」より抜粋

